

授業改善プラン 1年

	児童の実態と課題	取り組みの重点	授業改善の成果と課題
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く姿勢を持続できない、話の内容をつかむことが苦手な児童がいる。 ・句読点を打ったり、主語と述語に気を付けて書いたりできない児童がいる。 ・字を目で追って読むことや文脈に即して内容を読み取ることが苦手な児童がいる。 ・ひらがな（濁音・拗音・長音などを含む）が定着しておらず、正しく書くことが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物などを活用しながら、聞く姿勢を常に意識させ、身に付くように積極的に声をかける。 ・句読点については、教科書を視写することで意識できるようにする。 ・文を書くことについて、丁寧に指導し、自分の考えや経験を書く方法を身に付けさせる。 ・指でたどらせるなど、文字を見て正しく音読するよう継続して指導する。 ・根拠となる部分に線を引いたり書き抜いたりする活動を通して、文脈に即して読む経験を積ませる。 ・ワークシートなどを活用して、登場人物の気持ちなどを考えさせる。 ・繰り返し書くことで定着させる。 ・2学期以降、カタカナや漢字も繰り返し取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れや板書をパターン化したこと、毎時間の声掛けを継続したりすることで、「聞く場面・活動する場面・話す場面」を理解できる児童が増えてきた。一方で、苦手意識の強い児童がおり、指示を短く簡単にしたり、個別の支援をしたりして、声掛けや手だてを講じる必要がある。 ・簡単な文作りや日記、手紙、読書感想文等を書く活動を多く経験させた。書くことに対して前向きな児童が多くなり、文章量と語彙が共に増えている。また、視写を通じて文章の書き方の型を指導している。苦手意識の強い児童には、話しながら要点や概要を捉えさせたり、例文を示したりしている。 ・学級全体で文章の内容を読み取った後に、個別の作業を取り入れたことで、活動の要点を掴み、文章の内容を理解できるようになった児童が増えている。ワークシートや印の付け方の工夫等により、本文中から抜き書きすることへ自信をもち始めている。一方で、ワークテストでは問題文を理解できない、文脈に沿って解答できないといった児童もいる。個別の手だてがこれからも必要である。 ・ひらがな・カタカナ・漢字は、家庭学習や検定で繰り返し書かせ、正しく書くことができるように指導した。拗音やカタカナを未習熟の児童もいるため、年間を通じて繰り返し取り組む必要がある。

算数	<ul style="list-style-type: none"> 文章題を読み取れない、式の意味を理解できない児童がいる。 ブロックや指を使わないと10までの既習の計算ができない児童がいる。 数を10の単位としてみるのが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な題材や具体的な場面を学習課題に取り入れ、体験的な思考をさせる。 キーワードに丸を付けたリ、線を引いたりさせる。 絵や図に表して考えられるようにする。 プリントや計算カードで反復練習し、計算能力を高めていく。 ブロックなどを操作させて考えさせたり、10の構成を繰り返し指導したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な題材を取り入れ、単元を通して、学習課題の場面や用語を統一することで、多くの児童が問題文から場面を想像し読み取ることができた。一方で、問題文を読み取れず、式が立てられない児童もいるため、個別に支援が必要である。 絵や図にして表すことで、計算がスムーズにできる児童は増えた。今後は、式や文との関連性を高めて、場面を読み取って立式する力を伸ばしていく必要がある。 朝の全校算数や、家庭学習や検定として計算に取り組むことで、計算能力は高まったが、指を使って計算している児童もいる。継続して計算に取り組み、さらに能力を高めていく必要がある。 ブロック操作を行い、言葉でも操作の仕方を繰り返し言わせたことで、10の単位としての見方は定着しつつある。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 活動したことを絵や文にまとめることができるが、観察の視点が少なく、表現が乏しい児童もいる。 学級園の畑やビオトープ、校庭、公園など、自然に親しむ児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の指導と合わせ、「おおきくなった」の単元を通じて観察の視点到に広がりをもたせる。 観察の視点を明らかにしてから取り組ませるように心掛ける。 活動後には、振り返りの時間を設定し、カードに書いたり発表し合ったりする。 発見や感じたことを、班やグループで交流することで、興味や関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 動植物の観察の前に、観察の視点や手法を与えることで、多くの気付きをもたらすことができた。個別活動での気付きには差が大きい、全体の場で意見をより活発に交流させて、この差を埋める必要がある。 全体的にとても前向きで、自発的に活動しようとする児童が増えてきた。児童から出た感想や疑問から学習課題が設定できると、自主性も高くなりより意欲が高められると考える。

<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表現、鑑賞ともに意欲的に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体表現や歌唱表現で音楽のよさを感じ取り、表現できるようにする。器楽の経験も増やし、さらに楽しさが感じ取れるようにする。 ・言葉で表現したり、意見を交換し合ったりして、互いの感じたことを共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よさを感じ取り、さらに自分の声や音を聴きながら歌うことに意識を向けて表現できるようになった。様々な楽器の経験もし、それぞれのよさの違いも感じ取ることができている。 ・言葉ですすんで表現できる児童が増え、互いの意見を共有できている。意見を表現につなげていくことをさらに深めていく。
<p>図工</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・素直な感覚で、自分の発想を作品に生かすことが出来る。造形活動に興味、関心があり意欲的に取り組む事ができる。 ・さまざまな作品や友達の作品を楽しく観ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや感じたことをもとにして楽しく造形活動が出来るよう、児童の創造性を豊かに引き出す教材で児童の意欲、関心を引き出していく。 ・興味をもって、鑑賞できる絵画作品や造形作品を紹介する。児童が描いたり、作ったりしたものに興味をもち、互いに楽しく作品を観る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の創造性を引き出す表現方法や教材の工夫で、自分の感じたことや思ったことをもとにして、楽しく造形活動をすることができた。さらにもものや主題との出会いや場の設定の仕方によって意欲や思考を引き出す事ができた。 ・展覧会を通して、鑑賞しあい、他学年の作品にも興味をもち自分とは違った感じ方や表現の仕方を知る体験ができた。
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体を思いきり動かしたり、考えたりしながら体をつかっている。 ・固定遊具を使って遊ぶ児童が多い。 ・運動の技能には、個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しんで活動するために、ゲームを取り入れていく。 ・作戦を立てたり、考えを交流したりする場を設定し、運動に親しむだけでなく、考えながら取り組む楽しさを経験させていく。 ・技チェックカードを利用して、段階的に指導し、技能を高めさせていく。 ・様々な動きを数多く経験させるとともに、段階的な指導を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム活動を多く取り入れたことで、児童の主体性を育み楽しく活動することができた。 ・めあてや振り返りをチェックカードに書かせることで、児童一人一人がそれぞれの段階に応じて、めあてをもって、技能を高めることができた。 ・個人差はあるが、小グループで教え合うことで、相手のよいところを見付けながら、自分の動きに取り入れることができた。気付いたことを、全体の場で共有しながら引き続き、様々な動きを経験させていく。 ・いろいろな運動に引き続き取り組ませ、運動経験を積み重ねていく。体育から日常の遊びに繋げていきたい。

